

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 4月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0171700206		
法人名	(有) ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホーム すえひろ		
所在地	〒049-4315 瀬棚郡 今金町字今金358-13	(電話) 0137-82-2422	
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】 (21年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 17年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 13人, 非常勤 8 人, 常勤換算 12.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋ユニット平屋建て 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円
その他の経費(日額)	500 円 暖房費 160 円 (10月15日~4月15日)
敷 金	有 (円) <u>無</u>
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 有りの場合償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 300 円 昼食 300 円
	夕食 300 円 おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円

(4) 利用者の概要 (2月 10日現在)

利用者人数	18 名 男性 4 名 女性 14 名
要介護 1	1 名 要介護 2 1 名
要介護 3	10 名 要介護 4 4 名
要介護 5	1 名 要支援 2 1 名
年齢	平均 85 歳 最低 76 歳 最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今金国保病院 いまがね歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道5号線、国縫駅より33km程で今金町中心部がある。廃止された国鉄瀬棚線の撤去あとが遊歩道となり、今金町名所のオランダ公園へと続いている。この事業所は、一昨年、開設された小規模多機能施設と並行して建てられており、遊歩道は利用者の格好の散歩道となっている。運営者は高齢者福祉に多大な理解を示し、町役場や保健所などと密に連携を図り、利用者主体のケアに最善の努力をしている。また、管理者においては、「利用者第一」の理念のもと、職員には日々実践的な研鑽を重ねさせ、優しさに溢れたスタッフの育成に努めている。事業所は地域に根ざした認知症ケアの地域拠点となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ①重度化や終末期に向けた方針の共有について⇒図らずも利用者のお別れに遭遇した。立ち会った管理者より、その状況の報告と今後の取り組みについて、真剣な話し合いが行なわれた。②利用者全員の水分摂取量の記録について⇒個人ファイルの中にしっかりと記録され改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員各自が評価する形をとっている。これに基づき提案された事項についても論議され、最終的には管理者、母体組織の福祉部長、運営者で決定し、日頃のケアに活かしている。運営者、管理者を含む全職員が真剣に向かい合い、取り組み、すべてを総合して出来上がった自己評価である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 主に自己評価の取り組み状況について、及び事業所内の行事等日頃の様子を具体的に報告した内容になっている。次回はこの会議を活かし、緊急災害時など、早期に地元の協力が得られるよう取り組みに期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関には苦情などの意見箱があり、壁には重要事項説明書と苦情処理の一覧等張り出し、情報の開示に取り組んでいる。年2回の家族会があるが、苦情などの意見は出てこない。面会時には極力、希望・願い事を話せる雰囲気づくりに努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元八幡宮祭りへの参加を始めとし、商工会のイベント、敬老会、地域ボランティア他積極的に参加し、又、事業所主催の「すえひろ祭り」「七夕祭り」など、地域との交流は年毎に増えている。民生委員の事業所訪問に続き、住民の訪問も多くなってきており、事業所への理解が増していると感じられる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は核を形成する大切な表明であり、地域住民との交流を重視した全職員でつくり上げた独自のものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	正面玄関に理念を掲示している。管理者と職員は常に意識しながら、ケア方針にのっとったケアが出来ているか、フィードバックし確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元町内会に入会后、町内会の一員として、祭り、七夕、商工会イベントなどに参加し、事業所独自の祭りには、地域住民の参加も多くなった。また、利用者の出身地域での敬老会などに利用者と管理者が招かれ、地域交流は密になってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員各自が評価する形をとっている。これに基づき提案された事項についても論議され、最終的には管理者、母体組織の福祉部長、運営者で決定し、日頃のケアに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年1回の運営推進会議には、事業所内の具体的な様子を報告している。メンバーの意見は直ちに取り入れ、改善につなげている。次年度より一層のサービス向上の為、運営推進会議を年3回以上を目標にしている。	○	運営者と管理者が常に利用者へのより良いケアと、地域住民との交流に意欲的に取り組んでいる。これを大きく評価したいが、運営推進会議でのメンバーの提案は運営上不可欠なものと考えられる。よって現在年1回の会議を改善されるよう期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者や管理者は常に事業所内の様子や運営上の問題等を、町保健福祉課や社協、包括支援センターの職員と相談、指導を受けており、管理者は地域へ出向き、認知症の人への理解を講演などで訴えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行されている「すえひろ新聞」には、全利用者の日常の生活の様子が家族に発信されている。また、預り金については、健康面の報告と領収書出納の写しを送り、面会時にサインをもらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は玄関前に設置されている。特に家族の訪問時に出される利用者の生活歴や願い事、これらを大切に取り組んでいる。また、プランの確認なども同時に行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで異動はない。しかし今後、結婚、出産、夫の転勤と離職が決定している。運営者は経営上苦しい立場を強いられるが、1月より新規採用者を補充している。新規職員と利用者が徐々に良い関係を構築出来るよう最善の努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、内外研修勉強会など、職員が段階に応じた研修に参加出来るよう取り組んでいる。職員は働き乍ら各種資格取得のため互いに協力し合い、研修や受験に努力している。また、研修報告は全職員自由閲覧出来る。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の福祉関係従事者が2ヶ月に1回、「としべつ道場」に集い、仕事上の悩みや情報の交換、研修会での事例検討など、同業者同士の交流を通じて、ケアの質の向上に取り組んでいる。事業所より平均3～4名の参加がある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に入所前見学に来訪し、事業所の雰囲気慣れてもらえるよう、利用者と一緒に食事や、宿泊体験などの工夫をしている。又、管理者は各地域の老人会などに出かけ、認知症の人の理解と、ホームの啓発に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意向を尊重し、得意な趣味や活動などを共にしながら、より密接で信頼される関係になれるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの聞き取りにより、本人の思いを把握し、個々に合った生活ができるよう取り組んでいる。意志表示の困難な方には、表情などから真意を推し測るよう全職員で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のための介護計画作成のため家族の意見を中心に、職員は日々の生活の様子や情報など加味して、全体会議で論議の上プラン化している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新しく入居された方については、1ヶ月後に見直しているが、通常は3ヶ月目としている。但し、職員が利用者の状態変化に気付いた時、家族と相談の上、プランの変更をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の日々の体調に合わせ、買物、通院、その他の外出に対する同行や、外泊時の自宅までの送迎、又は、家族の事業所内宿泊等、臨機応変な支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所との協力医の他、利用前からのかかりつけ医の受診を大切にしている。定期的受診も予定しているが、歯科医の往診は継続している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員の日常の観察が気づきにつながり、緊急入院措置が取られた。家族、管理者、一部職員に看取られ、生涯を終えられた方がいた。この事業所での初めての「みとり」であり、この事により全職員が真剣に終末期のあり方の方針を共有することになった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人の尊厳を尊重し、とくに穏やかな言葉遣いや、笑顔に注意して接している。管理者は個人情報漏洩防止のため、職員に十分説明し、ファイル等は安全に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合や、日々介護の決まり事を優先することなく、その人中心の生活が送られるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員である栄養士による献立は、季節の食材をふんだんに取り入れ、個人の好みも入れるという細やかな献立表になっている。また、職員である調理師と利用者が一緒に食事の準備、片付など楽しそうに行っている。時に外出しレストランへ行ったり、出前をとったり、目先を替え支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により、時間指定入浴、一人入浴、仲良し入浴、自由に入浴、を楽しめるよう配慮している。また、入浴拒否の方の場合、本人の意向に沿い、無理強いはしない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族より聞き取りをした生活歴や、日々の暮らしぶりから判断し、本人の能力に見合った役割や、趣味等を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の体調に合わせ、出来る限り戸外に出るよう取り組んでいる。ホーム近くのオランダ公園は、地域の方々との交流の場となっている。他にバスハイクでの山・海へ出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、出入り口での施錠は、防犯上夜間のみとしている。外出する方の気配を察知し、職員は注意深いケアで補い支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、毎年、避難訓練を実施している。但し、事業所内のみの実施、研修であり、地域との協力を得られる働きかけには至っていない。	○	意欲的に行われている地域との交流は図られているが、災害対策については、まだ地元の協力を得るまでには至っていない。次回の運営推進会議の議題にのせ、是非、地元皆さんの協力を得られるよう町内会長へ要請されることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常勤の栄養士によるカロリー計算された献立が出来ている。管理ノート（バイタル）には細やかに個人の記録が記帳され、全職員が把握している。水分摂取量については、特に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きくゆったりとしたソファ、高齢の利用者に合わせた程よい高さのタタミ小上り。職員は注意深く、室温計、湿度計をチェックしている。季節に合わせた飾り物と生花、この居間の中で利用者はゆったりと過している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に於いて使われていた品々に囲まれ、安心した生活が出来るよう工夫されている。懐かしい方の写真、ベッド、椅子、テレビ、箆笥、みな居室に馴染んでいる。		

※  は、重点項目。